裁判へのご支援・ご協力を！
2018年04月23日　168号

生活保護制度を良くする会
ニュース

事務局　道生連
電話　011-736-1722
ファックス　011-736-1688
メール　seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp

保護費引き下げと物価高で医者から指示された食事内容を維持できない…

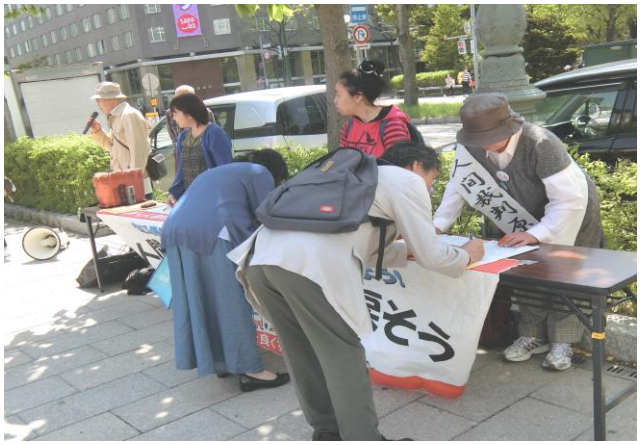
５月15日（火）、新・人間裁判の街頭宣伝が大通公園で行われました。１０地域・支援団体合わせて４１人が参加しました。「いのちのとりで」署名が２３筆、地裁署名が１９筆、募金が千円集まりました。

６人が街頭から訴えました

原告から吉田弦一原告副団長（北区　写真・左上）、高橋昭三郎さん（東区　同２番目）、高坂千明さん（西区　同３番目）、支援者から関口岩雄さん（清田区　同４番目）、横山正男さん（同５番目）、斉藤浩司さん（札幌社保協事務局長　同６番目）がマイクを握って訴えました。

「2013年からの引き下げに対する裁判をやっている最中なのに、私たち利用者の声を全く聞かないで、生活実態を掴まないで最大５％の引き下げを決めたのは許せない！」

「生活保護利用者を含む最も所得の低い階層の平均と比べて生活保護基準の方が高いから下げると言うのが政府のやり方。これを許したら、生保を利用している人は２０％しかいないのだから、５年ごとの改定のたびに引き下げられ、健康で文化的な最低限度の生活の水準が、どんどん引き下げられて行きます。最低賃金が上がらない、年金が引き下げられることにもつながります。こんな仕組みはやめさせましょう」



「難病や糖尿病の生活保護利用者は、医者から食事指導をされても、保護費引き下げによって食べなければならない食品が買えません。更に物価が高くなっていますので、自分の健康を維持できなくなっています」などと訴え、裁判闘争への理解と支援を呼びかけました。

ビラを読んだ生活保護利用者が電話くれ入会

事務所に戻ると「大通公園でビラを読み、署名をした」と言う方から電話がありました。

良く話を聞くと「自分も生活保護を受けているが生活が大変だ。少しでも力になりたいので入会したい」ということでした。

早速、ニュースと裁判の案内を郵送しました。